

施策マネジメントシート(平成24年度の振り返り、総括)

作成日 平成 25 年 6 月 日

基本目標	V	豊かな心と文化を育むまち	主管課	名称 教育課
				課長 岡田 宏一
施策	28	生涯スポーツの推進	関係課	

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
			2 スポーツ機会の充実	スポーツや運動に取り組んでいる人、意欲や関心がある人	スポーツや運動をする機会を得られる。
			3 スポーツ環境の整備	スポーツや運動に取り組んでいる人、意欲や関心がある人	スポーツや運動をする場を確保できる。
			4		
			5		

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
				A	週1回以上、スポーツや運動をしている町民の割合	%		実績値 46.9 目標値 46.3	47.0	48.0
B	体育協会加盟競技団体登録者数	人		実績値 1,930 目標値 1,930	1,848	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
C	体育施設利用者数	人		実績値 130,362 目標値 135,000	137,209	110,000	135,000	140,000	145,000	150,000
D				実績値 目標値						
E				実績値 目標値						
F				実績値 目標値						

指標設定の考え方と実績値の把握方法

A) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。
町民アンケートにより把握
※あなたはどの程度、運動・スポーツをしていますか。→「ほぼ毎日」、「週に1日以上」と回答した人の割合
運動とは、軽い体操や散歩などの身体活動
スポーツとは、ルールや決まりに基づいて活動する、陸上競技やサッカー、柔道や剣道など
生涯スポーツとは、子どもから高齢者まで生涯にわたって人生の各時期にそれぞれの興味関心や目的に応じて運動やスポーツに親しむこと。競技、レクリエーションとしてあるいは健康体力づくりとして様々な目的や楽しみ方がある。また、するだけでなく観る支える(応援・運営・教える)など様々な関わり方があります。

B) みなかみ町体育協会に加盟する団体のうち、各競技団体(22団体)に所属している会員数であり、数値が変わらずに推移すれば目標が達成できているといえるため成果指標とした。

C) 町内にある屋外と屋内の体育施設(学校体育施設の利用者数も含む)の1年間(4月から3月まで)の利用者数であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。

目標値設定の考え方

A) みなかみ町スポーツ推進計画(計画期間10年間)を平成24年度に策定。国・県の目標値は、それぞれ65%、55%としているが、都市部と比較して施設面での不利な状況を考慮すると、5年間で同水準をめざすことは困難。今後、少子化が急激に進み、スポーツ少年団の維持が困難になりつつあったり、人口減少により、団体競技の継続などが困難となっていることを考えると子どもの実施率は下がることが推測される。ただし、団塊の世代が退職を迎え、時間的な余裕が生まれる人がおり、こういった人々が取り組むことにより実施率は上昇する可能性がある。スポーツ吹き矢など新しい軽スポーツを取り入れており、割合が高まる可能性はある。これらは、高齢でも一人でも参加できるスポーツ。成り行きでは4人に1人だが、2人に1人以上の水準をめざす。【国平均:45.4%(H21)、県平均:47.2%(H22)】

B) 体育協会加盟団体のうち、比較的、誰でも容易に取り組める競技に人気が集まっている。またグランドゴルフ協会が平成25年度から体育協会に新規加盟する。複数の団体に登録・加盟している人がいたり、団体に登録・加盟しない人もいることから、団体種目がメインの競技団体では、自らの活動や運営に苦慮している団体があるので、2100人を減らさない。

C) 健康志向の高まりで、個人でも気軽に取り組める軽スポーツなどにより体力の向上や健康維持に努める人が増えつつある。平成25年度は大規模改修を見込んでいる体育施設があるため、利用者数が一時的に減ることが想定されるが、改修後は5,000人づつ増やしていく。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①スポーツや運動の必要性を感じ、講座やイベント、団体・グループ活動に積極的に参加する。 ②スポーツや運動の楽しさを広め、仲間づくりを行うなど、普及啓発に取り組む。 ③指導者となり、さらには後継者を育成する。	①スポーツ教室や大会を開催するなど、スポーツや運動機会の提供や契機づけを行う。 ②体育施設の整備と管理運営を行い、スポーツを行うための場を提供する。 ③スポーツや運動を行う人・団体の活動を支援する。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①少子化が急激に進み、スポーツ少年団の維持が困難になりつつある。 ②人口が減ると、団体競技の継続などが困難となる。 ③株式会社デサントと連携し、スポーツタウンプロジェクトが始動した。 ④スポーツ立国の実現を目指し、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するスポーツ基本法が平成23年に施行された。この法律に基づき、町では平成24年度にみなかみ町スポーツ推進計画を策定した。 ⑤健康志向の高まりにより、ウォーキングやランニングを行う人が増加傾向。 ⑥平成23年12月に「みなかみ町スポーツ・健康まちづくり宣言 ～笑顔っていいよね～」が制定された。	①老朽化の進む施設が多くあり、整備に関する要望に応え切れていない。(修繕や設備の機能向上など) ②施設予約については、観光目的の利用と町民の利用が重なることがあり、町民利用に制約が生じている。観光目的の利用予約は特に夏休みに集中している。観光専用の施設も必要ではないかという声もある。施設が集中していた方が、使い勝手がよい、施設に行くまでの道がわかりづらい、大会や教室まで行く手段がないから参加できないとの意見もある。

施策	28	生涯スポーツの推進	主管課	名称 教育課
				課長 岡田 宏一

		実績比較	背景・要因
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	<p>①「週に1回以上運動・スポーツをしている町民の割合」は、平成23年度46.9%から平成24年度46.3%となり、ほぼ横ばいの状況であった。</p> <p>②年齢別に平成23年度と平成24年度の割合を比較すると、20歳代は45.8%から36.4%と9.4ポイントの減少、70歳以上は62.6%から57.3%と5.3ポイントの減少が目立つが、他の年代ではほぼ横ばいか微増している。</p> <p>③地区別にみると、月夜野地区は47.6%から44.4%、水上地区は52.3%から49.2%、新治地区は42.3%から48.0%となるなど、月夜野地区と水上地区での減少が目立つ。</p> <p>④体育協会の登録者数は、新たに登録する人がいる反面、複数の団体に登録・加盟している人や個人志向の強まりから競技団体を脱退する人が見受けられ、総じて82名の減少となった。</p> <p>⑤体育施設の利用者数は、130,362人から137,209人となり、6,847人増加した。これは夏季の合宿等で町外からの利用者が増えたことや、ゲートボールの全国大会やグランドゴルフの関東大会等の大規模な大会が開催されたことによる。</p>
	② 他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	<p>①全国や群馬県のデータと比較すると、週1回以上運動・スポーツをしている人の割合(全体)は、全国や群馬県の中間に位置している。みなかみ町では、青年や壮年の身体を動かしている人は概ね2.7人に1人以上の割合だが、高齢者は2人に1人以上の人が身体を動かしている。これは社協や老人クラブなどが、様々な軽スポーツやレクリエーションを通じて身体を動かすことを奨励していることによる。</p> <p>みなかみ町 全体46.3%、青年36.4%、壮年37.4%、高齢者54.8% 群馬県 全体47.2%、青年51.8%、壮年29.5%、高齢者38.6% 全国 全体45.4%、青年27.7%、壮年42.3%、高齢者53.6% ※青年=20～29歳、壮年=30～59歳、高齢者=60歳以上 ※群馬県の数値は、平成22年度運動・スポーツに関する意識調査による ※全国の数値は、平成21年度体力・スポーツに関する世論調査による</p> <p>②年度別の体育協会登録者数を沼田市体育協会と比較すると、沼田市体育協会よりも高い割合で減少している。</p> <p>みなかみ町 (H23) 22団体・1,930人→(H24) 22団体・1,848人(82人減・95.8%) 沼田市 (H23) 30団体・9,153人→(H24) 30団体・8,935人(218人減・97.6%) ※沼田市体育協会は競技団体の他に、レクリエーション団体、中体連、スポ少を含む人数 ※利根沼田社会教育要覧の各市町村社会教育要覧による</p> <p>③年度別の体育施設利用者数を昭和村と比較すると、割合では低いが施設が多く存在することから、利用者数はみなかみ町が多い。昭和村は村外からの合宿等での利用が増えたことが増加の要因である。</p> <p>みなかみ町 (H23) 130,362人→(H24) 137,209人(6,847人増・105.3%) 昭和村 (H23) 56,716人→(H24) 60,419人(3,703人増・106.5%)</p>
	③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	<p>①「週に1回以上運動・スポーツをしている町民の割合」は、平成23年度46.9%から平成24年度46.3%となり、目標値に達しなかった。</p> <p>②体育協会に加盟する団体数は変わらないが、体育協会登録者数はソフトボール協会が休止状態で64人から0人、バレーボール協会が202人から181人、ミニバレー協会が215人から180人に減少するなど7団体で会員数が減少した。しかし卓球協会が85人から98人、野球協会が105人から135人、バドミントン協会が10人から45人となるなど7団体で会員数が増加した。</p> <p>③体育施設の利用者数は、平成23年度と比較して6,847人増加した。これは夏季の合宿等で町外からの利用者が増えたことや、ゲートボールの全国大会やグランドゴルフの関東大会等の大規模な大会が開催されたことによる。</p>
成果実績に対する総括	<p>①住民が活発にスポーツに親しみ、スポーツを通じて住民相互の和やかな人間関係の育成とコミュニケーションや連帯感の向上により、いきいきとした笑顔あふれるみなかみ町を創造するため、みなかみ町スポーツ推進計画を策定した。</p> <p>②スポーツ推進審議会を設置することにより、スポーツの事業実施や奨励等のスポーツの推進に関する調査審議する環境が整った。</p> <p>③平成22年度に開設した緑地公園の人工芝グラウンドの利用者数は、平成23年度に14,243人だったのが、平成24年度では13,427人となった。これは部活動での利用者数が減少したことが要因として考えられる。その反面、月夜野総合体育館の利用者数が18,006人→20,706人に伸びており、特に7月～9月の夏季期間での伸びが著しい。</p> <p>④平成20年度から開始した軽スポーツ教室を引き続き開催した。平成23年度からスポーツ吹き矢を導入した結果、体育協会の月夜野支部では講習会や大会を、各地区体育委員会では自主イベントとして取り組まれた。</p> <p>⑤平成19年度から体育協会では協賛金を集め、各支部や競技団体に配分し、町民のスポーツへの取り組みきっかけづくり等を行っている。</p> <p>⑥体育協会の新治支部において、地域のスポーツ活動を円滑に推進する役割を担う地区体育委員が各行政区から推薦され、体制づくりの礎が築かれた。</p>		

		基本事業名	今後の課題	平成26年度の取り組み方針(案)
今後の課題と取り組み方針(案)	1	スポーツ意欲の高揚	スポーツや運動に意欲や関心がない人に身体を動かす楽しさや必要性を理解してもらったり、スポーツや運動に取り組んでいる人には積極的な仲間づくりを促していく。	体育協会の運営や各地区体育委員会の体制整備等を支援する。 スポーツ少年団の活動内容等の情報を提供し、児童生徒のスポーツへの関心や取り組みのためのきっかけづくりを行う。
	2	スポーツ機会の充実	子供から高齢者まで幅広い年齢層の人たちが、多種多様なスポーツに親しめるよう、体育協会やスポーツ推進委員等と連携し、運動教室や各種大会等を開催したり、様々な競技の選手や指導者の確保・育成を支援し、団体競技の活性化を図る。	体育協会やスポーツ推進委員会で取り組んでいる、誰もが気軽に取り組めるスポーツ(スポーツ吹き矢・ノルディックウォーク)の普及・啓発活動を支援する。
	3	スポーツ環境の整備	身近な地域で安全にスポーツが行えるよう、施設の適切な維持管理や機能充実、利便性の向上を図りながら、有効利用を促進する。	水上社会体育館の耐震改修工事の実施設計を作成する。 老朽化がすすむ月夜野ターゲットボードゴルフ場を整備する。